

電子複写不可

作成済

天一號航空作戦戦術詳報

自昭和三十年三月二十三日
至昭和三十年六月二十日

昭和三十年七月三十一日
第八飛行師團司令部



(機空)
本土周辺
28

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

8000

1

天一號航空作戰戰鬥詳報

自昭和二十年三月二十三日
至昭和二十年六月二十一日

昭和二十年七月三十一日
第八飛行師團司令部



目次

第一	戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要	一
第二	戰鬪中ニ於ケル影響ヲ及ボセシ天候氣象及地形ノ狀況	七
第三	六戰シ敵ノ編成裝備戰法等	一一
第四	各時期ニ於ケル戰鬪經過並ニ關係各部隊ノ行動	二一
第五	戰鬪後ニ於ケル彼我形勢ノ概要	六四
第六	今次作戰戰鬪ニ於ケル戰訓	六八
附圖第一	三月中旬頃ニ於ケル敵進攻兵力並ニ伴フ空海勢力判斷要圖	
附圖第二	作戰開始時ニ於ケル師團ノ展開態勢要圖	
附圖第三	六月二十日頃ニ於ケル沖繩ニ面シテ敵情要圖	
附圖第四	六月下旬沖繩方面對シテ作戰中止時ニ於ケル師團ノ態勢	
附表第一	師團攻撃戰果一覽表	
附表第二	死傷表	
附表第三	兵器損耗表	

附表第四 燃料損耗表

御言葉

感状

寫

附錄 (別冊)

第一 關係命令 寫

(其ノ一)

第二 氣象資料

(其ノ二)

(主要時期ニ於ケル天氣圖
作戰間ノ天氣經過表
曰月出沒表)

第三 戰訓集錄

(同)

第四 空中寫真集錄

(同)

第一 戰鬥前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一 戰鬥前ニ於ケル敵軍ノ狀況

ノ比島方面

ロイテニ於テ戰ニ引續キ北部比島ノ作戰ニ著手ス

マツクアトサーノ麾下ノ米軍ハ三月上旬頃迄比島

方面重要飛行場ヲ悉ク占領シ銳意次期作戰

シ準備中ナリシカ三月中旬頃迄ニハ少クモ爆撃約

八〇〇機 戰鬥約七〇〇機ヲ下ラサル兵力ヲ算

ノ飛行場ニ展開シ戰線連合ノ大規模ヲ以テ隨

時臺灣方面ニ來襲スルニ至レリ

② 中部太平洋方面

二月中旬頃來硫黃島作戰ニ協カ中ナリシコトニ
ツツ麾下ノ第五八機動部隊ハ一命ヲ以テ三月一
日沖繩本島ニ來襲シ主力ハ五日頃「ウルシー」ニ歸
投シ次期作戰ヲ準備中ナリシカ三月十八日再ヒ九州
方面ニ來襲セリ此ノ間中(南西)部太平洋方
面ニ於テハ敵輸送船團ノ動キ極メテ活潑ニシテ三
月十七日頃ニ至リ攻略部隊ノ逐次「マリヤナ」方面ニ

集結セル狀況漸次顯著トナリシカ遂ニ三月二十三
日朝來有力ナル機動部隊ハ沖繩及宮古島附近ニ
來襲シ引續キ沖繩本島周邊ノ諸島嶼ニ上陸
ヲ開始スルニ至レリ
三月中旬頃ニ於テ敵進攻兵力並ニ之ニ伴フ空海
勢力ノ判断附圖第一如シ

○ 二戰前ニ於ケル我軍狀況

ハ全般ノ狀況

○ 前述ノ如キ敵情ニ鑑ミ第三十二軍ニ於テハ二月下旬

來其ノ守備ヲ嚴ニシ敵ノ來寇ニ備フルト共ニ航空關
 係ニ於テモ陸海軍中央協定及東支那海周邊地域
 ニ於ケル航空作戰指導要領ニ基キ夫々準備ニ着
 手スル所アリシカ天號航空作戰ニ於ケル戦力ノ主體
 トモ稱スヘキ特攻兵力ノ繰出シハ中央ノ努力ニモ拘ラ
 ス豫定ノ如ク進捗セス遂ニ三月下旬ニ至ルモ一隊ニ
 南西諸島及臺灣方面ニ到着セスシテ敵ヲ迎フ
 ルニ至レリ

又第三十二軍ノ防禦方針ハ是正問題(北中飛行

場ヲ中核トスル水際決戦思想ニ變更セシムル件)兵
 カノ増強(昨年十一月抽出セル兵力ノ補填)並ニ地上
 配備ノ變更等ニ關シテハ昨年末來第八飛行師
 團ノ意見具申ヲ中軸トシテ大本營第十方面軍
 司令部第三十二軍團ニ於テ數回ニ亘リ各種ノ接
 渉ヲ重ネタルモ遂ニ實現ニ至ラズシテ戰鬪開始
 ナル

2. 師團ノ狀況

師團ハ航空依戰的見地ニ基キ昨年末來屢ニ第

十方面軍並ニ第三十二軍ニ對シ沖繩ニ對スル兵力ノ
 增強守備重點ノ北中飛行場正面へ轉換等ニ關
 シ意見ヲ具申(開陳)スル所アリシカ容易ニ實現ヲ
 見ナリシヲ以テ昭和二十年一月及同二月大本營主宰
 ニ係ル兵機演習ノ實施ニ方リ作戰主任參謀ヲ派遣
 シテ更メテ之等主要問題ノ即決ニ關シ意見ヲ具申
 セシムル所アリ

○又他面師團ハ方面軍ノ天號航空作戰要領ノ示ス
 所ニ基キ第六航空軍ト所定ノ協定ヲ行ヒ作戰(戰

闘)ノ具體的要領ヲ立案スルト共ニ參謀ヲ九州ニ派
 遣シテ新ニ師團ニ配屬セラレタル特攻隊ノ掌握並ニ
 推進ニ勉ムル等着々沖繩方面ニ對スル作戰準備ヲ
 促進シツツアリシカ三月中旬概テ諸隊(中央ヨリ配屬
 セラレタル特攻隊ヲ除ク)ノ作戰準備ヲ完整シ所謂
 「待ツアルヲ待ム」ノ状態ニ於テ戰闘開始トナル
 當時ニ於ケル師團ノ展開態勢附圖第二其ノ一乃至
 其ノ三ノ如シ

第二 戰闘ニ影響者ヲ及ボセシ天候氣象及地形狀況

一 天候氣象ノ狀況

本作戦開始ノ當初ハ北東季節風ノ夕、臺灣北部及東岸一帶天候不良ナリシヲ以テ宜蘭及花蓮港方面ノ基地使用ハ氣象ノ障害ヲ受クルコト比較的多カリシニ石垣以東下層雲薄ク先島群島方面ヨリ行フ攻撃ハ大ナル支障ナク實施スルコトヲ得タリ

爾後四月ヨリ五月中旬ニ到ル間ハ大陸高氣壓ト北太平洋高氣壓トノ勢力交代期ニシテ移動性^{高氣壓}頻繁ニ發生シ其ノ中南支ヨリ東支那海ヲ經テ臺灣

沖繩方面ニ移動スルニ方リ作戰地域ハ短キハ兩三日全般ニ好天持續シ高氣壓^{高氣壓}進シテ後面トナルニ及ヒ次ノ移動性高氣壓ノ到來迄一兩日一般ニ天候悪化スルヲ常トセリ斯ノ如ク氣象ノ推移ハ概ネ周期的ナルモ其變化ノ頗ル迅速ナリシハ本期間ニ於ケル特筆スルキ特徴ナリキ

師團ハ前述ノ如キ氣象ノ特性ト月ノ中旬ヨリ翌月初頭ニ及フ月明期トノ關係ヲ考慮シ同期的

好天ノ機會ヲ敏速ニ捕捉シテ攻撃ヲ實施シ五
 月中旬頃迄ハ大ナル氣象ノ障礙ニ禍セラレ
 コトナク概ス概調ニ戦闘ヲ終始ヒリ特ニ四月三
 十二日及二十七日ノ薄暮及夜間ノ攻撃ハ月明ト
 目的地附近ノ好天トニ恵マレ大ナル戦果ヲ收メ
 タリ然ルニ五月下旬ニ及ヒ南西風ノ勢力漸ク
 増大シ不連續線ハ沖繩臺灣ノ線ニ停滞十八
 日以降月末ニ到ル迄連日陰曇ナル天候持續シ
 此ノ間揚子江下流又ハ福建省附近ニ小低氣

壓發生シテ次々ニ東進ス又ハ臺灣附近上層ニ南風
 ノ侵入顯著ニシテ九州沖繩間比較的ニ天候良好ナ
 ル場合ト雖モ宮古以西ハ厚キ雲層ニ蔽ハレ飛行ニ
 困難ナル狀況ヲ呈シ遂ニ五月二十四日夜決行セラレ
 ヲ義號作戦ニ策應セントスル師團ノ出撃ニ全同
 之ヲ放棄スルノ止ムナキニ至レリ

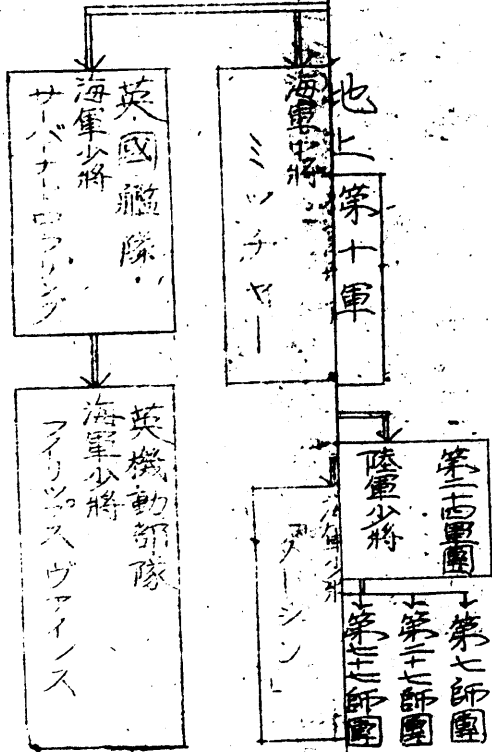
ニ地形ノ狀況

宮古島沖繩本島間約二百海里ノ間之ヲ連続ス
 ル島嶼ノ存在セサルコトハ火力航法特ニ夜間ノ航法

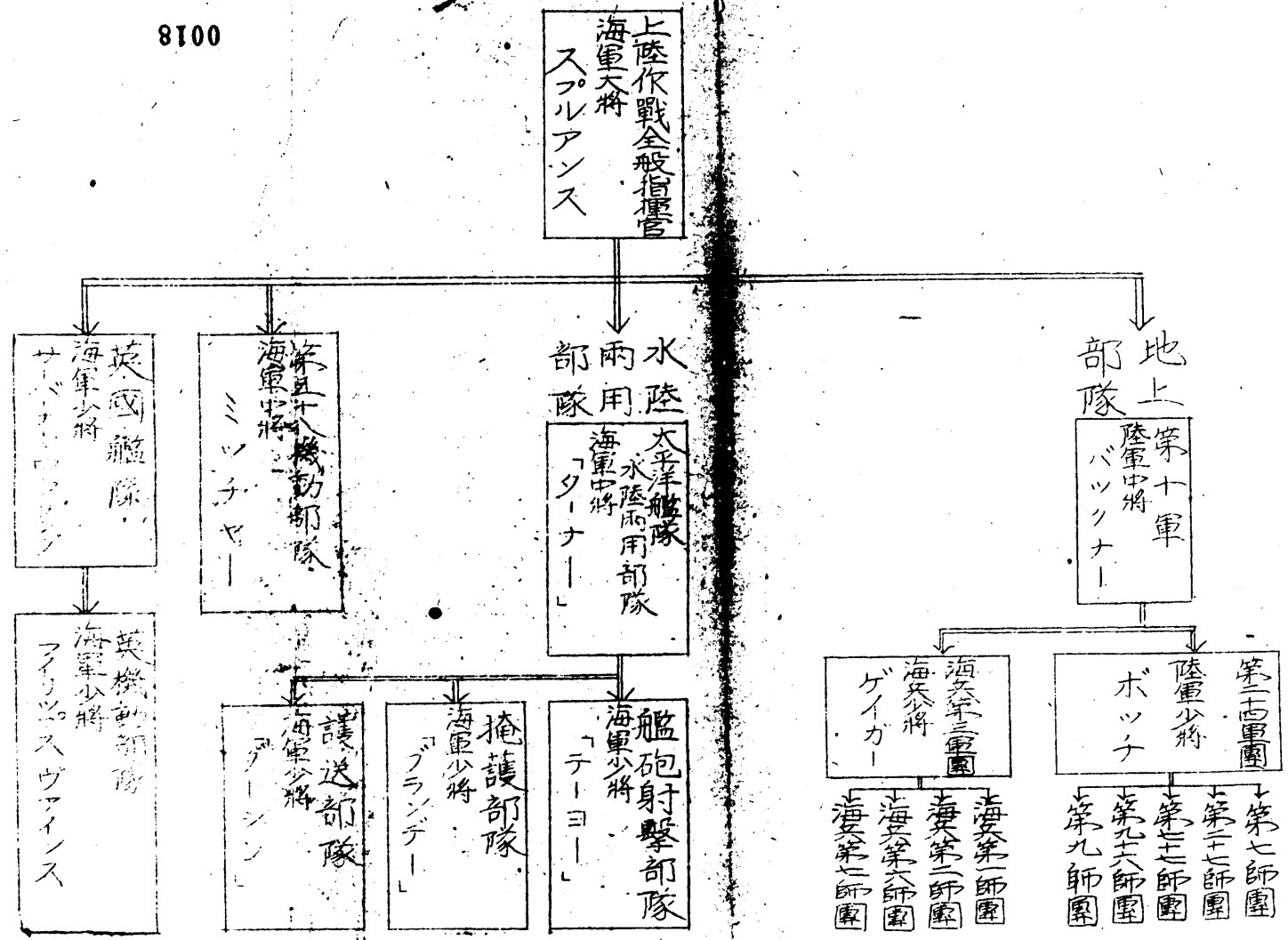
十 交戦セシ敵兵力團體號將帥ノ氏名左衣ノ如シ

第三 交戦セシ敵ノ編制、裝備、戦法等

ヲ誤ラシムル原因トナリ之カ爲幾多ノ犠牲ヲ出セリ
右ニ反シ九州方面ヨリスル島傳ヒノ進攻ハ技術劣
等ナル特攻隊ト雖モ殆ト誘導ノ必要ナク又臺灣
本島ヨリノ攻撃ニ於テモ魚釣島ヨリ赤尾嶼ヲ經テ久
米島ニ亘ル一連ノ島嶼ハ我カ進攻ノ爲航法ノ基準
點トシテ比較的有利ニ利用セラレタリ



點トシテ比較的有利ニ利用セラレタリ
 第三 交戦セシ敵ノ編制裝備戦法等
 十 交戦セシ敵兵力團體號將帥ノ氏名左衣ノ如シ



敵側發表ニ依ル艦船總兵力一四〇〇隻、
地上交戦兵力八乃至一〇箇師團

二 敵ノ編制裝備素質戦法ニ關スル觀察

米第五十八機動部隊

一 二月上旬硫黄島攻略作戦前新鋭空母數隻ヲ編
入シ周到ナル準備ヲ實施シ今次沖繩作戦ニ於テ
硫黄島作戦一應終結スルヤ引續キ急速整備ノ
後九州方面ニ來襲爾後沖繩本島上陸作戦ニ
密ニ協力主トシテ沖繩以北、我が航空撃滅ニ任シ

アリタルモノノ如シ

編制ノ概要左ノ如シ

指揮官 海軍中將 マークミッチャー

第一群 スーパー フスブベントン (ハロウズ)

第二群 レキシントン バンコック (サンジャント) 19

第三群 バンカローレ エセックス シヤングリラ (カウペン)

第四群 ミックタウン ランドルフ (カボット)

第五群 エンタープライズ サラトガ レンヂャー

表前上 是前ニ此ノ大ナル變化ナキモ益々戦闘機

ヲ主體トシ直衛兵カラ増強スルト共ニ一部ノ空母

ニハ夜間戦闘機ノミヲ搭載シ夜間ノ上空哨戒ニ專

任セシメ我ガ特攻及夜間攻撃ニ對處シアリタルモ

多如シ

米機動部隊艦載機塔乗員ハ比較的戦闘意識 30

旺盛ナルモ一般ニ伎倆ハ良好トハ認め難シ

又 米護送空母部隊

從來作戰開始前艦隊ノ護送哨戒等ニ任ジアリ

シモノニシテ沖繩作戰開始セラレルヤ主トシテ英

機動部隊ト協同シ先島方面ノ我カ前進基地制
壓ニ任セリ

特設空母ヲ以テ編成セラレマリテ(第五十一機動部
隊ト稱ス)其ノ一例左ノ如シ

特設空母 一〇 驅逐艦 一〇

ステイマリーベイ、ツラギ、ペテローベイ、マウンドポイント

スウォニー、マーカスアイランド、ウエーキアイランド

マカツサルストリート等

編成裝備上特ニ見ルベキモノナシ

英國機動部隊

二月上旬其ノ太平洋艦隊編成ヲ宣傳セラレ三月上
旬中部太平洋方面ニ進出シアリシカ本次作戰開始
セラル、ヤマトシテ先島群島方面ニ特攻基地ヲ壓
ヲ擔任ス臺灣ニ對シテモ來龍ヲセタ

其ノ攻撃狀況等ヨリ見ルモ政略的企圖濃厚ニシテ
戰意旺盛ナラズ

又上空直衛極メテ嚴重英國軍ノ特性ヲ遺憾ナク
表ハシアリ

編成ノ概要左ノ如シ

制式空母 三 ヴィクトリアス インディファタカブル インドミシガル

特設空母 二

戦艦 二 キングゲョーダ五世 ハウ

巡洋艦 三 驅逐艦 一二

(五月十日俘虜情報)

3. 敵ノ執リタル戦法就中特攻對策

敵ハ數次ニ亘ル我カ航空攻撃ニ依ル艦船ノ損耗ニ對

シ種々ノ對策ヲ講シアリシカ其ハ今次作戦ニ於テ現

出セル主ナルモノヲ述フレハ左ノ如シ

(1) 沖繩本島進攻ニ先立テ慶良間群島ヲ攻略シ對空火力配備

電波敬言戒機ノ設置等ニ依リ慶良間泊地ノ防備ヲ強化シ

本島攻略ノ據點トセリ

(2) 有力ナル機動部隊ヲ以テ晝夜我カ攻撃基地ヲ制壓ス

ルト共ニ北中飛行場ニ海兵航空部隊ヲ急遽ニ推進シ晝

間戰場上空ニ常時數十機ヲ在空セシメ夜間ハ夜戦ヲ以テ哨

戒ヲ實施セリ

(3) 有力援護艦艇ハ晝間ハ陸岸ニ近接地上空戰

ルニ夜間ハ慶良間西方又ハ南方海面ニ於テ我カ攻撃
回避セリ

必 當功吹艦船ハ我カ夜間攻撃ニ對シ緊ク對テ又ハ之ニ依
存セシモ中期頃ヨリ煙幕ヲ展張シ我カ攻撃ヲ困難ト
シムニ努メタリ殊ニ慶良間泊地ハ朝夕煙幕ヲ展張スル
ヲ常トセリ

敵ハ多數ノ船舶損耗ニ鑑ミ相當數ノ工兵艦ヲ慶良間
ノ泊地及嘉手納沖附近ニ進出セシメ毎日十數隻ノ修

向ハ先島群島ノ攻撃基地ニ對シ連日時限爆彈ヲ以テ我
カ飛行場使用拘束ニ勉メタリ

第四 各時期於ケル戦闘經過並關係各部隊行動

一 戦闘經過ノ概要

三月二十三日早朝有カナル敵機動部隊沖繩及宮
古島ニ來襲セシヲ以テ師團ハ直チニ對機動部隊
戦闘準備ヲ下令スルト共ニ沖繩方面ノ搜索力ヲ強
化シツツ待機セシカ翌二十四日沖繩本島南部海岸
附近ニ數十隻ヨリ成ル有力艦艇現出シテ我カ

地上陣地ニ對シ砲撃ヲ開始スルニ至リシヲ以テ直
ニ二天一號即應ノ態勢ニ轉移シ隨時ノ攻撃ヲ
準備ス

次テ翌二十五日諸情報ヲ綜合セル結果敵ノ本格
的上陸進攻愈顯著トナリシヲ以テ師團ハ在九州
ノ西參謀及在沖繩ノ神參謀ニ對シ逐次到着スル
特攻隊ヲ指揮シ沖繩周邊ノ船艦ヲ攻撃スヘ
キヲ下令スルト共ニ同夜敵機動部隊慶良間群島
附近ニ現出遊代中ナルヲ偵知セシヲ以テ愈々攻撃

ヲ開始スルニ決シ同夜作命甲第二百十三號ヲ下
達シ翌二十六日早朝一部ヲ以テ之ヲ攻撃ス

爾後沖繩本島ニ對スル艦砲射撃逐次熾烈トナ
リ敵艦船ノ動キ亦慶良間群島ヲ中心トシテ愈
活發化セシモ艦船ノ動向其ノ他全般ノ狀況ヨリ
敵ノ沖繩本島ニ對スル上陸ノ氣配ハ比較的僅少
ナルカ如ク判断セラレシヲ以テ師團ハ敵ハ先ツ沖
繩本島周邊ノ島嶼攻略シタル後沖繩本島ニ上
陸ヲ企圖スル算大ナリト判断シ別紙ハ如キ電報

ヲ關係方面ニ打電ス

此ノ頃電報ノ傍受等ニヨリ第六航空軍及聯合艦隊主力ハ依然攻撃準備中ニシテ主力ノ攻撃開始ハ更ニ數日間遅延ノ見込ナルヲ承知セシヲ以テ師團ハ過早ヲ兵力投入ヲ戒ム適宜兵力ノ投入ヲ抑制シツツ好機ヲ捕捉シテ行フ一部ノ攻撃ヲ續行ス 然ルニ四月一日敵ハ沖繩北中兩飛行場西方海岸ニ本格的の上陸ヲ開始セシヲ以テ師團ハ豫備上陸ヲ基キ直ニ主力ノ攻撃ヲ開始セリ

始セリ

斯クテ攻撃ヲ續行スルコト約ニケ月餘六月上旬ニ至リ沖繩本島方面勝敗ノ歸趨自ラ明瞭トナレルト宮古島方面ニ對スル敵ノ進攻企圖逐次濃化ノ狀況ヲ察シ來レルヲ以テ師團ハ應沖繩方面ニ對スル攻撃ヲ中止シ主トシテ戦力ノ充實ヲ圖リツツ敵ノ新企圖ニ備フ

二 第一期（至三月二十六日）

／ 戰鬪經過ノ概要

師團ハ三月二十六日第九飛行團ヲシテ誠第十七飛行隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ慶良間群島附近ノ敵機動部隊ヲ攻撃セシメタルヲ皮切リトシ主力ヲ以テ臺灣本島及先島列島（特攻並ニ軍偵隊ノ反復爆撃）ニヨリ一部（九州ニ逐次集結セル特攻兵力）ヲ以テ九州方面ヨリ（第一回特攻ハ三月二十七日）東西相呼應シテ攻撃ヲ開始シ緒戦劈頭敵ニ甚大ナル

損害ヲ與ヘ其心膽ヲ寒カラシメタリ

次テ四月一日敵ハ沖繩本島ニ對シ本格的上陸ヲ開
始セシモ我カ地上兵團ノ抵抗見ルヘキモナク西モ
第六航空軍及海軍航空部隊主カ未夕攻撃ヲ
開始スルニ至ラサリシヲ以テ敵上陸部隊ハ何等痛
害ヲ蒙ルコトナク無血上陸ニ成功シ忽チ沖繩北中
兩飛行場ハ敵ノ占據スル所トナリシカ第六十二軍ニ於
テハ未夕反撃ノ模様ナシ

茲ニ於テ師團ノ此ニ處ニ在リテ在陣時日ヲ經過セシ

カ眞ニ憂フヘキ事態ニ立至ルヘキ必致ナリト判断
シ四月三日爾後ノ作戰ニ關スル師團ノ見解ヲ別
紙ノ如ク方面軍ニ開陳スルト共ニ全般作戰ノ見
地ヨリ第三十二軍ノ即時反撃ノ必要ナル所以ヲ
強調シ意見ヲ具申スル所アリ然ルニ其ノ後間ニ
テハ第六十二軍ハ獨自ノ立場ヨリ反撃ヲ決意セル
旨ノ電報及方面軍ノ第三十二軍ニ對スル反撃命令並
ニ聯合艦隊(第六航空軍)ノ四月六日以後ノ本格的
攻撃ニ關スル通報ニ接シタルヲ以テ師團ハ萬難ヲ

排シテ之ニ協カスルニ決シ所要ノ部署ヲ爲ス(作命
 甲第百四十二號)ト共ニ爾後ノ攻撃ノ目標ハ第三十二
 軍ヨリ要求モアリ主トシテ大型艦艇ニ變更セリ斯
 クテ師團ハ聯合艦隊(第六航空軍)ト協同シ第三
 十二軍ノ反撃ニ密ニ策應シテ連續不斷ノ攻撃ヲ
 續行セシメ第三十二軍ハ間モナク反撃ヲ中止スルニ
 至リシヲ以テ爾後師團ハ主トシテ航空部隊獨
 自ノ見地ニ基キ攻撃ヲ實施スルニ至レリ

第11方面軍參謀長
 參謀次長

八飛師參電第一七五五號

一 沖繩島ニ對スル上陸當初ノ戰果芳シカラス遂ニ憂フヘキ戰況
 二 立到ラシメタルハ師團ノ責任ニシテ是ニ申譯ナシ

一 併シテ下ヲ現下ノ戰勢ヲ觀察スルニ敵ノ兵力僅カニ師團内
 外ニ過ニス後方補給路亦長遠ナルモ拘ラス敵水上艦艇(空
 母ヲ含ム)ノ損害甚大ナルハ蓋フヘカラサル事實ニシテ上陸兵團ノ
 支援ニ任スヘキ基地航空ノ根據未タ安定シアラサルハ我ノ乘スヘ
 キ好機ナリ

而シテ此ノ好機ハ旬日ヲ出テスシテ去ラントス即チ上陸セル敵ヲ攻
 撃シ沖繩北中飛行場ノ使用ヲ拘束スルハ大局ヲ終ラレテ戦目
 的ヲ達成スルト共ニ敵ニ大出血ヲ強要スル為絶対ノ要件ナリ
 師團ハ未ダ兵カノ半数以上ヲ保有シテリ靖亦然ルヘシ球ニシテ此
 ノ機ヲ逸ヒテ進テ積極的攻勢ヲ採リシカ陸海空戦力發揮ノ好
 機亦生起繼續シテ戦局ノ打開必スシモ不可能ニ非サルヘシ
 球上雖モ此ノ戦機ヲ捕捉スルコトナク易クトシテ眼前ニ敵航
 空要塞ノ建設ヲ許シ神州ヲ醜翼ノ蹂躪ニ委シ自ラ沖
 繩ノ一隅ニ建在スルモ完全ノ地防ヲ有セズ

萬一戦局打開ニ到ラストスルモ玉碎ニ至ル間少クモ數ヶ月
 我カ各種戦力發揮ノ機會ヲ作為スルヲ得テ敵ニ大出血
 強要シ國體護持ニ寄與スル所極メテ大ナルヘシ
 航空作戦的見地ニ基キ戦機ヲ逸セシコトヲ虞シ右敢テ愚
 見ヲ開陳ス

通電先

臺灣

参考

參本

2 各部隊ノ戦闘經過

一 第九飛行團

① 第九飛行團ハ二月中旬以降先島群島ニ展開シ作戰
 準備中ナリシカ敵進攻ノ企圖明瞭トナルヤ臺飛
 作命甲第二百十一號ニヨリ新ニ飛行第二十四戰隊
 誠第百十五 第百十六飛行隊獨立飛行第四十中
 隊ヲ其ノ指揮下ニ入ラシメラル(三月二十五日發令)
 當時ニ於ケル軍隊區分(括弧内ハ展開地)左ノ如シ

第九飛行團

誠第四十一飛行隊 (石垣)
 誠第百十五飛行隊 (宮古)
 誠第百十六飛行隊 (宮古)
 第六十九飛行場大隊 (石垣)
 第二百五飛行場大隊 (宮古)
 第二百十八飛行場設定隊 (宮古)
 第二獨立整備隊 (石垣)
 第十四戰鬥修理班 (石垣)
 誠第一整備隊 (沖繩)

長 柳本大佐
 第九飛行團司令部 (石垣)
 飛行第二四戰隊 (宮古)
 獨立飛行第二三中隊 (石垣)
 獨立飛行第四一中隊 (宮古)
 誠第十七飛行隊 (石垣)
 誠第三十一飛行隊 (石垣)
 誠第三十九飛行隊 (宮古)

展開豫定ナリ
 九州ヨリ直

(ロ) 三月二十六日飛行團ハ誠第十七飛行隊ヲ基幹トスル
 部隊ノ敵機動部隊攻撃ヲ最初トシ四月一日頃迄ニ
 三回ニニリ沖繩西方海面ノ敵艦船ニ對シ攻撃ヲ
 實施シ爾後引續キ新ニ配屬セラレタル飛行第十七
 第十九第百五戰隊ノ特攻隊ヲ以テ沖繩周邊ノ
 敵輸送船團ニ連續攻撃ヲ實施スルト共ニ援彼セ
 ル一部ノ兵力ヲ以テ夜間爆撃ヲ反復シ多大ノ戰
 果ヲ收メタリ

ニ策應シテ晝間充實セシメテ自衛力ヲ
 基キ飛行第二十四第百五戰隊ヲシテ所要ノ準備ヲ
 整ヘシムルト共ニ主力ヲ以テ依然沖繩方面ニ對ス
 ル黎明夜間薄暮ノ攻撃ヲ續行ス
 (ハ) 此頃先島群島ノ飛行場ニ對スル敵ノ攻撃ハ漸ク
 頻繁トナリシカ飛行團長ハ地上兵團ノ協カヲ
 得ルト共ニ指揮下諸隊ヲ督勵シ飛行場ノ修復
 ヲ強行シテ其ノ機能ヲ確保ニ勉メ以テ師團直轄
 タル他ノ飛行部隊ヲシテ宮古及石垣飛行場ヲ

中繼基地トシテ使用スルニ支障ナカラシメタリ
 (三) 本期間ニ於ケル第九飛行團攻撃状況(成果)別
 表第一ノ如シ

二 第二十二飛行團

の飛行團ハ作戰開始以來主トシテ第二線^{部隊}トシ
 テ附圖第二其ノ(一)ノ態勢ニ在リテ戦力ノ充
 實ヲ圖リツツ特攻隊ハ編成訓練等ニ任シツツ
 アリシカ沖繩方面ニ對スル攻撃ノ進展ニ伴ヒ三

日飛行第十九隊^隊ヲ宜蘭(最初ハ石垣ノ指定ナ

リシモ宜蘭ニ變更セシメタリ)ニ於テ夫ノ第九飛
 行團長ノ指揮下ニ入ラシメタルト共ニ四月一日

獨立飛行第四十三中隊ヲ帝國海軍トシテ抽出

(二) 四月十日南胡^部臺灣方面ニ對スル狀態ノ變化

ニ對應スル爲新ニ誠第一百十七及同第一百十八飛行
 隊ヲ夫々臺東及蘭州ニ移テ飛行團ノ指揮下
 ニ入ラシメラレ 敵艦船ニ對スル隨時ノ攻撃ヲ準

備又

九州方面ヨリ投入セル特攻部隊ノ戦闘經過

西參謀ノ特攻隊ノ掌握及推進

西參謀ハ特別攻撃隊ノ掌握並ニ臺灣ニ向テ

前進ヲ指導スヘキ任務ヲ受ケ三月十六日新

田原ニ到着シ二十五日頃迄ニ左記ノ如ク部

隊ヲ掌握シ轉進ヲ準備中臺飛作命甲

第二百十三號其ノニヲ受領ス

太刀洗

雁ノ巣

熊本(健軍)

新知

演習F
演習開始日26日
1944/6
46

誠第三十三飛行隊

誠第三十四飛行隊

誠第三十五飛行隊

誠第三十六飛行隊

誠第三十七飛行隊

誠第三十八飛行隊

誠第三十九飛行隊

誠第四十飛行隊

誠第四十一飛行隊

茲ニ於テ先ニ誠第三十三飛行隊ヲ二十五日夕次テ

誠第四十一飛行隊ヲ三月二十八日夫々沖繩(中)飛

三八

三七

44

45

行場ニ前進シ神參謀ノ指揮下ニ入ラシム
更ニ三月二十九日誠第三十九飛行隊ヲ沖繩ニ向
テ前進セシメタルモ同隊ハ徳之島ニ不時着シ爾
後第六航空軍隷下第六飛行團長ノ指揮ヲ
受ケ沖繩方面ノ攻撃ニ任ス

三月二十七日師團ヨリ別紙ノ如キ電報命令ニ接シ
タルヲ以テ特攻隊ノ臺灣ヘノ轉進ヲ指導スルト
共ニ第六航空軍トノ連絡ニ勉メ太刀洗及福岡

必要ナル特攻機ノ増槽並ニ臺灣向飛行機ノ空
輸ニ關シ關係部隊ト接洽ス

次テ三月二十一日福澤參謀新田原到着ト共ニ其
ノ任務ヲ同參謀ニ由テ四月二日出發スル迄福

澤參謀ヲ援助ス

(四) 神參謀ノ特攻隊ヲ以テスル艦船攻撃

神參謀ハ第三十二軍參謀兼第八飛行師團參
謀トシテ沖繩ニ在リシカ臺飛作命甲第二百十
三號其ノニ基キ逐次到着スル特攻隊ヲ指揮シ

別表^{四一}ハ如ク攻撃シ緒戦勞頭甚大ナル戦果ヲ收メ敵ノ心膽ヲ寒カラシメタリ

(ハ) 福澤參謀ノ特攻隊ヲ以テスル艦船攻撃

福澤參謀ハ臺飛作命甲第二百二十號ニ基キ三月三十一日新田原ニ到着シ西參謀ノ任務ヲ繼承ス

當時沖繩各飛行場及徳之島飛行場ニ對スル敵機ノ攻撃ハ漸次熾烈トナリ徳之島ヲ中継シ又ハ

攻撃^{四二}ハ不利トナレラテ以テ福澤參謀ハ從來ノ如ク在

九州特攻隊ヲ神參謀ノ指揮下ニ入ラシムルコトナク

直接新田原ヨリ攻撃セシムルヲ有利ナリト判断シ爾

後ノ攻撃ハ專ラ九州ヨリ直接實施スル如ク指導セリ

斯クテ諸隊ハ四月一日三日六日ノ三次ニ亘リ攻撃ヲ實

施シ別表^{四三}ハ如ク偉大ナル戦果ヲ收メタリ

次テ福澤參謀ハ誠第三十三飛行隊ノ全カラ九

州ヨリ臺灣ニ轉進セシムルト共ニ師團命令ニ基

キ四月十日ヲ以テ在九州特攻隊殘部ノ人員器

四二

第六航空軍ニ轉屬シタル後臺灣ニ歸還セリ

四

西參謀ハ逐次到着スル特攻隊ヲ左ノ如ク處理スヘシ

一 誠第三十一、第三十三乃至第三十五、第三十九飛行隊ハ適當ナ

ル誘導機アリハ上海經由ニテ臺北ニ前進セシメ其

ノ他ハ薄暮ヲ利用シ沖繩(中又ハ北)又ハ徳之島ニ前

進シテ神參謀ハ指揮下ニ入ラシムヘシ

ハモシ氣狀狀況敵情等ノ關係上沖繩(徳之島)へ前

進困難ナル時ハ中北部九州ニ於テ待機セシムヘシ

二 一般ノ戰況氣象等ノ關係上南部九州ヨリ直接攻

撃スルヲ有利ナリト確信セハ前項ニ拘ラス獨断部

署スルコトヲ躊躇スヘカラス

0054

四、其他ノ師團直轄飛行部隊
ノ飛行第十戰隊

三月二十五日沖繩群島周邊ニ三群ノ機動部隊ヲ
捕獲セシ以來屢々沖繩方面ニ出動シ緒戰劈頭ニ
於ケル師團ノ攻撃ヲ容易ナラシム

又四月一日早朝北中飛行場正面ニ對スル敵ノ本
格的上陸ニ方リテハ逸早ク其ノ全貌ヲ明ラカニ
シ全般ノ戰鬪指導ニ資スルト共爾後連續的ニ
出動シテ沖繩本島周邊ノ空海狀況ヲ明カニシ著

0055

留

53

53

52

大ナリ

昇表第

月日

目標

部隊

兵力

戦果

損害

三二六

鹿島開群島
同隊敵機動
部隊百スル
掃尾攻撃

23 FcS 敵 17 F

軍偵 特攻 六機
直掩 二機
誘導 二機
六機

大型 A 一機 喜破
不確容
BA 二機 喜破
二機 喜破

未歸還
敵十七飛行隊
四機
独立飛行第三中隊
大機(八)

三二八

沖繩本島西方
三〇村敵艦
三〇村スル夜
間攻撃

敵 17 F 4 FcS

軍偵 特攻 二機
爆撃 一機

戦果不明
爆撃不悉
A 一機 喜破
報入(三交入)

未歸還
未歸還 一機

三二九

沖繩同地敵
艦船高攻
(爆撃)

4 FcS

軍偵 爆撃 二機

C 一機 直要大破
大型艦 二隻 大破
林火攻撃

未歸還 八機

鹿島附近
艦船一対
掃尾攻撃

24 FR 4 FcS 17 FR

軍偵 直掩 二機
誘導 二機
八機

中型丁 一機 喜破
大型艦 一機 喜破
黒煙 二機

未歸還 八機

鹿島附近
艦船一対
掃尾攻撃

4 FcS

軍偵 直掩 二機
誘導 二機
八機

中型丁 一機 喜破
大型艦 一機 喜破
黒煙 二機

未歸還 一機

鹿島附近
艦船一対
掃尾攻撃

4 FcS

軍偵 直掩 二機
誘導 二機
八機

中型丁 一機 喜破
大型艦 一機 喜破
黒煙 二機

未歸還 一機

四二二

鹿島附近
艦船一対
掃尾攻撃

4 FcS 敵 14 F

軍偵 直掩 二機
誘導 二機
八機

中型丁 一機 喜破
大型艦 一機 喜破
黒煙 二機

未歸還 特攻 八機
直掩 二機

四二三

残波岬西方海
面大規模艦

4 FR

軍偵 直掩 二機
誘導 二機
八機

中型丁 一機 喜破
大型艦 一機 喜破
黒煙 二機

未歸還 特攻 八機
直掩 二機

